

## 「歩遊の道～長崎街道を歩く～」

### 1、長崎街道の魅力

歴史ある長崎街道には趣がある。趣とは、そのものが自ずから創り出す落ち着いた感じの味わい、風情が伝わってくることである。それは、人々に親しまれ、歴史を身近に感じる長崎街道ならではの魅力である。当時の街道には、御茶屋(本陣)・町茶屋(脇本陣)という身分・地域別の休憩所があり、多くの一般の旅人はその周辺で休み、地域住民との交流の場としても繁栄していた。今でも昔日の面影が残る木屋瀬に趣を感じるのは、そこにかつて人と人との交流があり、人が文化を育んできた歴史があるからである。しかし、木屋瀬のまちはたしかに趣を感じるまちではあるが、ただ整備し見せるだけでは生活者にとって、より良いまちづくりとはいえない。また考えもせず整備してしまったら、その景観、歴史をも壊してしまいかねない。我々は歴史や場所性を考え、木屋瀬を活かしてきた当時の茶屋にみならい公園を提案する。



### 2、今こそ必要なもの

かつての木屋瀬宿の人々は訪れる旅人達を歓迎し、街道沿いの茶屋の周辺では、人が集まり「コミュニケーションの場」がたしかにあった。しかし、昔のような人との出会い・ふれあい、またそこから生まれる活気は今の街道沿いにはみあたらない。地域住民はおろか人の影すらみあたらない。旅人は見知らぬ土地での人との出会い・ふれあいをたのしむことができなくなっている。今こそ木屋瀬に必要なのは、旅人を迎える受け皿となる空間、地域住民が集まる憩いの空間である。街道を歩く人と地域住民の接点をつくることで、当時のように木屋瀬が生きてくる。

### 3、今だからできること

前述、当時の茶屋は身分・地域別で分けられていた。しかし、現代では身分格差がない。茶屋といっても当時とは違い、誰でも気軽にくつろぎ、会話や出会いをたのしめる場所となる。趣ある木屋瀬の歴史から学んだ茶屋に現在のよさをくわえて行く。「誰でも気軽に楽しめる」というのは今だからこそできる事だ。



木屋瀬のまちは全体が博物館といわれるように、まち並みが当時に似ている。そこで、今も昔も木屋瀬の中心、茶屋跡でもある木屋瀬宿記念館とこやのせ座の間に計画する。

#### 茶屋の構成内容

- ①茶屋外部の公園のウッドデッキを前面道路のアスファルトの一部分に張りだし、自然に足が誘われる仕掛け
- ②開かれた空間：二つの方向に開かれた屋根は、遠賀川沿いの道と木屋瀬の街道を通る人々を誘い込む仕掛け
- ③茶屋（食事処）の機能を持つ円形状の建物は円の持つ求心性を用いて人々を誘い込む。②で説明した屋根は木屋瀬特有の鋸状の町並みを意識している。これは周囲の趣ある町並み、環境に解けこまし親しみやすさをだす仕掛け